

[A類社会コース, A類現代教育実践コース環境教育プログラム, B類社会コース 対象]

倫理 解答例

令和6年度 一般選抜前期

I 問1

わけへだてなくどのような人々にも注がれる神の無償の愛に基づき、「自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい」という教えによって、隣人との関わりにおいて自分自身が定められている、とされる。(94字)

問2

ストア派の人々は、自然の一部である人間は自然によって理性を与えられ、自然に反する欲望や快楽を克服したアパテイアという境地に至って自然に従って生きられるとした。エピクロス派の人々は、最高善である快楽を追究し、真の快楽は一時的なものでなく死の恐怖や肉体の苦痛から解放されたアタラクシアであると考えた。(149字)

問3

ヘーゲルによれば、精神とは、単に個人的なものを指すのではなく、自由を本質とし、歴史を動かす、世界を成り立たせている、個人を貫通する普遍的なものである。歴史とは、精神が自己の抱く理想を現実の世界で実現する過程を指し、それは自己実現としての自由であるから、世界史とは自由の意識の進歩である。(143字)

問4 ウ

問5

私たちが生きるこの世の中には、善悪・貴賤・是非・美醜といった相対的な区別や対立があるが、莊周は、これらの区別や対立は人為の産物にすぎず、この世の万物は本来すべてがみな斉しいと考えた。その実践として、心をむなしくすることで分別への執着から解放され、天地自然と一体となる生き方が目指され、人為を超えて何物にもとらわれない、おおらかに自由な境地である逍遥遊に到達した真人を理想的な人間とした。(194字)

[A類社会コース, A類現代教育実践コース環境教育プログラム, B類社会コース 対象]

倫理 解答例

令和6年度
一般選抜前期

II

問1 解脱

問2 貪・瞋・痴という根源的煩惱のことである。このうち、貪とは特定のものを食ろうとする心である。また、瞋とは特定のものに対する嫌悪感・怒りである。また、痴とは無知、すなわち誤った理解のことである。(96字)

問3 救われる者か否かはあらかじめ神の絶対的な意思によって定められていて、個人の意思や行動によって変えることはできないという、キリスト教の神学思想。カルヴァンの『キリスト教綱要』などに説かれる。(94字)

問4 ヴァルダマーナ (マハーヴィーラ)

問5 生命あるすべてのものには生きようとする意志があり、その生命は神秘的価値のある尊いものである。その生命の価値を自覚した人間は生命を守るべき責任を負う唯一の生物であり、そこに倫理や道徳の存在根拠がある。倫理とは、あらゆる生物へ無限に拡大された、生命を守る責任である。あらゆる生物の生命を守り敬うことが善であり、生命を傷つけ滅ぼすことが悪である。この思想は『文化と倫理』などで説かれる。(192字)